連合獣医学研究科自己点検評価書

項　目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	
基準４　学生の受入 ４－１　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 ４－２　実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	入学者選抜の改善に繋がった取組 〇Native English speaker による英語入試問題の確認作業を導入した結果、試験中の質問が減少し、問題の適正化が図られた。 入学者数を改善するための取組 〇研究科の入学者数は入学定員の 1.15 倍（23 名)で有り適正な数である。	平成 28 年度研究科入学者等	連合獣医学研究科の取り組みを示すポンチ絵（公表用１枚）
基準５　教育内容及び方法 ５－２　教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。(学士課程) ５－５　教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。(大学院課程)	単位の実質化を図るための取組 〇学際領域特別講義は、専門分野講義３コマを中に構成されていたが、連携機関の教員による１コマと国際医療情勢及び生物統計に関する２コマを追加し、幅広い分野の準備や復習により授業時間外の学習時間確保、広角的な視野の習熟に繋がった。 〇講義内容については、受講者に対するアンケートを行い、内容等の改善に利用した。	授業アンケート結果	
基準６　学習成果 ６－１　教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。 ６－２　卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。	学習成果の向上に繋がった取組 〇科学英語及び実践実習について授業後のアンケートにより、受講生の大部分が理解できていることが認められ、学習成果が向上していると考えられる。 〇これまでの卒業生の動向調査では、卒業生の 6 割が大学及び公立研究機関で職を得ており、研究科の目的である教育者及び研究者の育成を達成している。昨年度の卒業生においても、20 人中 14 人が大学及び公立研究機関へ進んでいる（ポスドクを含む)。	H27 科学英語受講者（報告用） H27 実践実習受講者（報告用） 卒業・修了時調査結果	
基準８　教育の内部質保証システム ８－１　教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備さ、機能していること。 ８－２　教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	教育の質の改善に繋がる取組 〇研究不正が社会的に問題となり、新入生に対する研究倫理教育を特別講義（受け入れカリキュラム）で実施するとともに、CITI Japan の e-learning を全学生に義務付けた。 〇大学院生の教育・研究の指導面での課題を的確に把握するため、指導教員へのアンケートを実施し、実態把握に努め. 研究科の活動に活かした。	大学院生に関するアンケート調査 大学院生に関するアンケート調査について	

平成27年度　連合獣医学研究科の教育改善　（基準4、5、5、8）

岐阜大学連合大学院
研究科委員会

代議委員会
（各大学2名、計10名で構成）

研究科の管理
運営を担当

入学試験委員会

入試関係を担当

基準5　教育内容および方法

○ 研究科が多彩な教育内容を提供：
　学際領域特別講義（学際的な科目を導入し、毎年、アンケート調査にて改善）
○ 多様な講義および演習手法を導入：
　出張講義、遠隔講義、他大学での演習、海外研修や国際学会への出席を支援

学際領域特別講義（岐阜大学発信）

出張講義

遠隔講義

基準6　学習成果

○ 科学英語や実践実習の改善：→ アンケートにて内容を改善し、学習成果を確保
　科学英語は4大学で実施、実践実習は5連携機関で実施
○ 大学院の教育研究成果 → 修了時アンケートと学位授与率等で評価
　昨年の修了生の約6割が大学および国公立研究機関へ就職

基準8　教育の内部質保証システム

○ 初年次での研究倫理教育とコンプライアンス教育の充実：→ FDにて周知
　大学院1年次の特別講義にて、研究倫理教育を実施
○ 研究科提供科目での授業評価：→ アンケート調査を導入して内容を評価
　研究科が指導する講義、実践演習や他大学との連携教育の内容を改善

基準4　教育内容および方法

○ 大学院の外国語入学試験問題の改善と入試制度への取り組み：
　Native English Speakerのチェックの導入による良問作製へと改善
○ 入学者数の適正化：
　平成27年度の入学生は、1.3倍以下（定員20名）と適性数を確保